

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

警固屋中学校区 校番8 学校名 警固屋中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	<p>未来に貢献できる「自分を創る」資質・能力を育むため主体的な学びを推進する。</p>	<p>「考える授業」づくりを進め、生徒の学力を向上させる。</p>	<p>○ 9年生の実力試験の得点の地域平均との差は、国語(+0.8) 社会(-1.7) 数学(-2.3) 理科(-1) 英語(+1.1) であった。 ○ グループ活動では、自分の考えを言うことができる生徒は増えたものの、その考えに対して自分の考えを言うなどして考えを深めるまでに至っていないのではないかと考える。</p>	<p>○ 警固屋学園授業スタイルを基にした授業改善を全教科で行う。具体的には授業において「本時のねらいを焦点化すること」「教科等の見方・考え方を単元や授業単位で具体化すること」「本時のねらいを達成させる思考場面の設定を行うこと」「本時のめあてに対応したまとめ・振り返りを行う」の4点に着目し、全教員に共通確認をしていく。また、「振り返り」では、「Kチャート(振り返りシート)」を使用し、次の授業のねらいへつなげていく取り組みをする。 ○ 総合的な学習の時間を基盤とした教科を生かす教科横断的なカリキュラムの流れを構成し、児童生徒の主体性を引き出ししていきたい。</p>
**	<p>だれもが安心・安全な環境で学べる学校風土を醸成する。</p>	<p>地域の実態に応じた学力の定着を図る。</p>	<p>○ 標準学力調査の無回答は、8年数学が14%で、無回答率が突出している。各教科とも設問によって無回答の差が大きい。 ○ 「タブレット端末を活用するのは勉強に役立つ」と考える生徒の割合は、7年・8年生では肯定的評価は100%だった。9年生では54%であった。 ○ 1か月の間に本を1冊も読んでいない生徒の割合は、朝読書の時間に本を読む習慣を身につけることで、結果は100%であった。</p>	<p>○ 令和6年能登半島地震を受け、さらに自分事としてとらえ、自然災害はいつでもどこで発生するかわからない事をしっかりと考えさせる。今までの避難の仕方では通用しないことも伝えながら、さらに当事者意識として考えることができるよう取り組んでいく。</p>
*	<p>教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備</p>	<p>地域が安心・安全な環境で学べる学校風土を醸成する。</p>	<p>○ 文化祭等の学校行事が、コロナ禍以前の参加体制になるなど、個々の生徒が学級活動や部活動などを通し、主体的に活動できる場が増えた。 ○ 「いじめアンケート」では、数人の生徒が、「嫌な思いをしたことがある」と回答している。</p>	<p>○ 行事だけでなく、様々な場面で挑戦できるような場面や声掛けをしていくことで、周りの集団の手本となる姿を教員が見せられるようにしたい。 ○ 学年の後半に近づくと、些細なことがきっかけでトラブルを起こしやすくなる。未然防止も含め、全ての教員と保護者と連携し生徒の見守りを進めていき、生徒の安心安全な生活をサポートしていきたい。</p>
	<p>基本的生活習慣を定着させる。</p>	<p>基本的な生活習慣を定着させる。</p>	<p>○ 「メディアコントロール週間」を、2学期は中間・期末試験の2回実施した。7・8年生の達成度が大幅に下がっている。</p>	<p>○ 来年度目標値を高く設定し、日頃からSNSの使用についてはコントロールできるよう指導していきたい。また、学習習慣を身につけることができるような対策をしていきたい。</p>
	<p>生徒と向き合う時間の確保</p>	<p>在校等時間の縮減</p>	<p>○ 10~1月の下半期における時間外在校等時間が45時間以内の教職員の割合は、昨年度の同時期と比較してやや改善した。(昨年度52%)</p>	<p>○ 水曜定時退校の励行。 ○ 各自が仕事量の把握と時間を意識し、計画的に仕事を進めていけるよう互いに声を掛け合い、意識をさらに向上させる。</p>
		<p>生徒と向き合う時間の確保</p>	<p>○ 「生徒と向き合う時間が確保されているか」という問いに対し、肯定的な回答をした教員は、9名中8名である。</p>	<p>○ 「共有」「協働」を徹底し、学年や分掌をより一層組織的なものにする事で、チーム力の向上へ繋げ、子どもに向き合う時間の確保が実感できる職場づくりを推進する。</p>